

5. 機械金属 部会

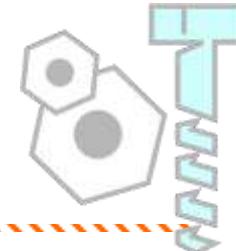
西岡 勝樹 部会長

5. Departamento de Metalmecânica

Presidente: Katsuki Nishioka



業種別部会長シンポジューム



機械金属部会

「2009年上期の回顧と下期の展望」

業種・分野別分類

1. 鉄鋼(鋼板)	7. 各種工具/精密機器
2. 電力・大型プロジェクト	8. 軸受
3. プラント	9. 農業機械
4. 建設機械	10. 電動工具
5. 産業用圧縮機	11. 潤滑油
6. 鋳造機械	

2009年8月18日

日立製作所 西岡



1.鉄鋼(鋼板)

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 60

概況

国内市場:金融危機の影響 昨年4Qに急落
本年徐々に回復 前年同期比▲42%

輸出:国際マーケット需要冷え込み
前年同期比▲13.3%

輸入:昨年急増したが、国内供給力回復で
減り始めている。
粗鋼生産量 昨年1,740万トンから
1,056万トン ▲39.5%

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 130

概況

国内市場:自動車産業中心 販売回復
が見られる。上期比23.38%と予想。

輸出:国内需要の回復の期待、輸出増を
狙い、休止中の高炉6基中3基再稼動
決定。国内需要の回復のスピードは
少し遅い、輸出大幅増の予想。

輸入:国内供給力が増えた。輸入は
徐々に従来のレベルに。

2.電力 及び 大型プロジェクト

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 90

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

電力(変電):金融危機の影響あったが、
その他顧客調整し、売上影響なし。
電機:ペトロプラス向け圧縮機入札多数
大型プロジェクト:新幹線プロジェクト
入札発表 近く予定。
地下鉄 リオセントラル向け電機品受注
モノレール案件入札。
デジタル放送機器:厳しい期間
放送局の投資先送り。ペルーの採用。
その他:オートバイ マナウス工場建設中。

概況

電力(変電):生産計画 埋まっている。
市場ニーズ 後退は無い。
電機:ペトロプラス向け圧縮機入札継続。
大型PJ:新幹線入札公表、事業権者決定。
地下鉄新規案件 旺盛な需要
デジタル放送機器:政府の普及政策がカギ
更なる南米他国採用結果。
船舶用機械:ペトロプラスからの発注増
船舶業界賑わいを見せてる。

3. プラント(紙パルプ・石油化学・エタノール等)

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 80

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 115

概況

紙パルプ業界: 金融危機の影響

紙パルプ需要減、輸出価格下落、
設備投資 見合せ。ボイラーコンバージョン
の商談はあるが、進展は無い。

石油化学業界: ペトロプラスの好調な業績と
投資意欲に支えられ、引き続き堅調

鉄鋼・非鉄業界: 国際市場価格下落、
減産、延期、見直しが見られた。

エタノール業界: 原油価格低調
原油との価格差 小
投資はほとんど無い。

概況

紙パルプ業界: 世界経済の安定すれば、
投資再開。再開は2011年以降と予想。
引き続き厳しいと予想。

石油化学業界: ペトロプラス 5カ年計画
17兆円投資計画 大きな期待

鉄鋼・非鉄業界: 需要回復傾向、本格回復、
設備投資再開 2010年以降か?

エタノール業界: 新規投資商談望めず、
金融危機の影響いつまで続くか?
ペトロプラス 頼み

4.建設機械

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 90

概況

国内需要 2008 4Q から下がり
2009 1Q ▲30%（昨年同期比）
2009 2Q ▲40%（同）

輸出総台数 2008 4Q 大幅落込
2009年上期 ▲77%
日欧米 在庫調整終えていない。

概況

国内需要 2009 下期 低水準
2009 通期予測 ▲40%（前年比）
例年雨季の下期は上期より販売少ない
傾向 若干好転する感覚

輸出総台数

中国・インド 新興国回復基調
ではあるが、ほぼ横ばい
2009 通期予測 ▲70%
操業短縮・残業カット対策

5.産業用圧縮機

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 65

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

食品業界：金融危機以前に投資済
現状 設備投資意欲 非常に低い
大手食品会社の統合（設備投資縮小）
豚・牛肉 輸出伸び悩み
鶏肉 やや上向き
飲料産業 まずまず好調
ペトロケミカル業界：ペトロプラス 海外との
連携強化、設備投資強化。
新規大型案件は国際化進む。
アルコール市場 若干の設備投資

概況

食品業界：鶏肉産業 比較的好調
2009後半 設備投資・計画実施
力ある会社 来るべき輸出需要増に対応
飲料業界：本年度投資計画終了
来年度の計画模索中
ペトロケミカル業界：ペトロプラス関連
時間は掛かるがプラットフォームの
新規投資計画期待
ペトロプラス以外のケミカル業界
期待薄

6.鋳造機械

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 90

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

鋳造業界:自動車・鉄鋼の大幅生産、
輸出ダウン

2009上期▲42%(昨年同期比)

投射材市場:自動車・鉄鋼関連の
影響大

2009上期▲41%

石材業界:2009上期▲22%

概況

鋳造業界:回復するも
2009下期予想▲20~30%(昨年比)

投射材市場:回復するも

2009下期予想▲20~30%(昨年比)

石材業界:横ばい予想

今後の建設需要次第、回復期待

7.各種工具/精密機器(切削工具、耐磨工具、他)

2009年上期の回顧

昨年の8月(リーマンショック前)を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

切削工具:自動車の販売急激な回復だが、
緩やかな回復。数字的には2月が底。

輸出は低調。部品生産 客先 在庫過多、
販売回復まだ。在庫消化 年内掛かるか

耐磨耗工具:受注50%と低迷
キャンセル対応と納期調整

精密機械工具:販売実績 70%止まり
在庫過多、投資様子見。

教育・研究 受注底堅い

ICMS税制変更の影響が大、
販売に多大な影響が出た。

概況

切削工具:自動車生産に牽引され
確実に回復。但し、2007 レベルか

耐磨耗工具:寿命による更新数件の見込み
新規案件は難しい。

精密機械工具:自動車好調なるも下期の
販売にはタイムラグあり、楽観は許さない。
但し、一部代理店の在庫も減少しており
決して悲観一辺倒では無い。

下期は上期に対し、5%~10%に設定
経費削減、利益確保 次の成長に備え再出発

8.軸受

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 115

概況

鉄鋼、農業、電機等各産業分野：輸出需要の低迷、在庫過多によりOEM、アフターマーケット双方 大幅売上落込み

自動車軸受分野：IPI減税効果、内需の強さ比較的好調。(トラック除く) 売上も2Q以降回復に向かいつつある。

両分野とも顧客のグローバル調達進展、
リアル高、中国製廉価輸入、競争激化

概況

自動車IPI減税率 段階的に引き上げ
多少、販売鈍化の懸念あるが、
自動車生産・販売は高水準と予測。
下期は対上期でかなり改善されると期待。

一般産業分野：世界的な需要回復遅れ、
リアル高、輸出の低迷が懸念

一般産業向けの回復は2009 4Q以降か

9. 農業機械

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 100

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 110

概況

エンジンビジネス：2009 4Qから急激に冷え込んだ。2009 3月回復の兆し
2009 2Q 95%レベルまで回復
金額ベース 2009 上期全体 90%
台数ベース 2009 上期全体 75%

トラクタービジネス：小規模農家支援
政府低金利融資政策 小型トラクター好調。
政府の価格コントロールで採算では厳しい。

概況

エンジンビジネス：OEM先、ディーラー
エンジン在庫適正レベルに戻る
下期販売 台数ベース 90%
金額ベース 昨年並み
一部製品で安価な中国製流入の為
落ち込み予想。
年間では 金額ベース 90%以上の
達成を期待。
トラクタービジネス：低利子政策 引き続き
好調維持を期待。

10.電動工具

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 80

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

建設関連 大きな落込みは見られず。

グラインダー等の鉄鋼関連工具は
工場関連の低迷により40%近い落込み。

但し、レシーフェなど北東部は金融危機を
殆ど受けず、順調に推移。

概況

買い控えをしていた販売店の在庫が
手薄に成ってきた。景気回復に伴い、
販売もアップ。

一方でドル安で中国製の安価ブランド参入
価格競争激化。

11.潤滑油

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 105

概況

金融危機 昨年11月から顧客生産調整

生産数量 極度に低下

2009 1Q 50%近く落ち込む

政府減税政策 自動車生産回復
販売 70%まで回復

しかし 二輪車生産 依然、低迷
今後とも 厳しい経営環境を予想。

概況

米国経済低迷続くが、中国の経済回復が早い
下期 ブラジル経済も回復傾向にある。

牽引役は農業部門。

工業部門は80%～90%の生産回復か

通期でも 「雨」 が降り続くか ？？

機械金属部会 全体

2009年上期の回顧

昨年の8月（リーマンショック前）を100とすれば

100 → 70

2009年下期の展望

上期を100とすれば

100 → 120

概況

2008年9月リーマンショック以降 成長にブレーキが掛けた。
しかし、政府の自動車・白物家電への減税対策、その他 景気刺激策。
ペトロプラスの変わらぬ積極投資の恩恵。
各業種・産業 回復の兆しが見えてきた。



薄日が差してきた？

世界金融・経済危機による底は脱したか？
部会参加社 全員 はい